

第4章 活動者の声 (敬称略)

自然豊かな西区を未来へ



二十四軒連合町内会 会長 河崎 快二

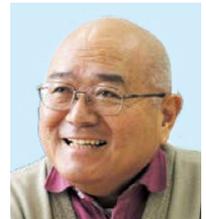
設立10周年。平成16年5月の設立時に発起人のひとりとして名を連ねた私にとっては、この記念すべき年を迎えられたことを、大変感慨深く感じております。

西区は札幌市の中でも、とりわけ自然に恵まれた区であります。その恵まれた自然を後世に引き継ぐため、西区内の全ての連合町内会をはじめ、多くの団体が手を取り合い、この区民協議会を立ち上げました。単なる話し合いをする場ではなく、区民一人一人が自分たちの住んでいるまちをよりよくするために行動できる場にしていきたい。そういった思いから、設立趣旨書は作られました。そして、設立記念講演会のステージの上で、その趣旨に賛同し集まっていた300人を超える方々を目前にし、西区を愛する地域住民らの心意気に感動したのと同時に、新たなステージへの幕が開いたのだと身が引き締まる思いを感じたことを、今でも鮮明に覚えております。

環境活動を行うことでもたらされる変化が、目に見えるかたちになるまでには、長い長い年月が必要かもしれません。しかし、私は、10年前に目指していた理想のまちに向けて、一歩ずつではありますが、着実に歩み続けていることを確信しております。

「継続は力なり」という言葉のとおり、これまで行われてきた活動が、未来に引き継がれること、また、活動の輪がさらに広がっていくことを願っております。

子どもたちの笑顔のために



西野連合町内会 会長 佐藤 功悦

西区の豊かな自然は、この地を開拓した先人達から、現在の私たちが引き継いだ財産であり、誇りであります。その自然に恵まれた西区を愛する思い、そして、未来の子どもたちに引き継ぎたいという思いから、長年、地域住民が中心となって、多くの取り組みが行われてきました。

平成元年に平和湖で、当時、当町内会の会長であった前鼻正守氏の呼び掛けがきっかけで始まったやまめの稚魚放流も、今や、区内の全地域を巻き込み、西区の春の風物詩として、すっかり私たちの暮らしに定着しています。

私も、この事業に長年携わってきましたが、印象に残っているのは、やはり、子どもたちの姿です。子どもたちが真剣に取り組む姿、また、稚魚を放流する時の溢れんばかりの笑顔。その一生懸命な姿を見ると、この子どもたちがこれからの西区をつくっていくのだと、そして、子どもたちの笑顔を守るために、この豊かな自然を守っていきたくないと改めて実感いたします。また、このような活動を通して、人々の絆が深まり、さらに広がっていくのを感じています。

このような地盤がある西区だからこそ、区民協議会の設立に至り、10年を経た現在においても、その活動は継続されているのだと思います。これからも、未来の子どもたちの笑顔のために、地域一丸となった環境活動が行われるまちであり続けることを祈念いたします。

次世代の若者に期待をこめて

NPO法人環境り・ふれんず 代表理事 東 飛郎



私どもは主に「西区独自の廃食油の回収」や「ごみ減量について改めて考えるためのエコトーク映画会」などで、西区環境まちづくり協議会の皆さんの協力を得ながら、ごみ減量・リサイクルの啓発活動をさせて頂いています。

10年前は「リサイクル(再資源化)」という言葉が主流で、「リデュース(ごみの発生抑制)」「リユース(再使用)」なんて聞きませんでした。最近ではテレビCMに流れたりもして、ずいぶん3Rが浸透してきたように感じます。優先すべきはリデュースとリユースで、それでも出てしまったごみをリサイクルという順番が望ましいのです。

最近、学生ボランティアの方々と一緒に活動をする機会があるのですが、ほとんどの学生さんが3Rのことを知っていてビックリすると同時に頼もしく思います。そんなときはよく「実は10年前の西区民会議のイベントに参加していた子どもたちが大人になって、一緒に活動してくれているかもしれない！」などと考えてしまい一人で感動しています。

近年、札幌市では「小型家電のリサイクル」「古着のリユース」などが始まるなど、ごみの情報は、比較的早いサイクルで更新されていきます。西区は環境推進区として、そういった情報をいち早く発信するとともに、先駆的な環境活動を実践してきました。これからも、今までのスキルを生かし活動していくとともに、将来的には西区が他区を牽引していけるような存在になり、未来を担う子どもたちに豊かな自然を残していければと思います。

豊かな水辺環境は、西区の宝

NPO法人あそベンチャースクール 代表理事 田中 住幸



西区環境まちづくり協議会の事業として、区内の幼稚園や保育園、小学校などに出向いて、自然体験活動の機会を提供する「エコキッズ・プログラム」を担当しています。

1年間に約40件延べ2,000名の子どもたちが参加してくれています。人気のプログラムは、琴似発寒川や左股川での「水生生物観察会」です。箱メガネと呼ばれる水中をのぞくことのできる道具を持って、大きなチューブに腹ばいで乗りこみ川を流れながらの水中観察は、子どもたちはもちろんのこと引率の先生たちにも喜ばれています。

1回目は「何も見えないよ～」なんて言っていた子どもたちが、2回、3回と繰り返すうちに「あっ、いた～！」と生き物を発見し、喜びの声をあげてくれます。川底でじっと隠れているハナカジカやフクドジョウ、流れに逆らうように元気に泳ぐヤマメやウグイ、時にモズガニや川エビなどなど、驚くほどさまざまな生き物を観察することができます。よく見て、自分のからだを使って直接ふれることで、身近な自然への愛着もわき、大切にしようと思う気持ちが生まれてくるものだと思います。

今後も継続して、西区の宝である豊かな水辺環境をいつまでも大切にしようとする地域を愛する気持ちを子どもたちの心に育ていくことができればと思います。



西区の魅力を再発見

公益社団法人札幌市子ども会育成連合会西区支部 副会長 中野 眞理子



私たち子ども会は、西区の小学生を対象に、札幌市外の施設に宿泊し、実践型の環境「エコ」学習に取り組んでいます。

「登別ネイチャーセンター ふおれすと鉱山」では、「アカソ」という多年草の葉を子どもたちと集め、鉱山の川の水で煮出し、白いハンカチを染め上げ、鉱石を掘った穴の跡や石の中に存在する金などを見たり、鉱山の歴史を学びました。

「北海道立洞爺少年自然の家」での宿泊では、洞爺湖でカヌー、藍染の体験をしました。

昨年は、「国立日高青少年自然の家」に宿泊し、沙流川でボートラフティング、ボディラフティング、日高に自生するトドマツの板を使って焼板クラフトの体験をしました。

3年間、同じ施設で環境活動をしなければいけないので、活動内容に変化をつけるのに苦労はありますが、子どもたちのエコ活動に対してがんばっている姿を見て、子どもたちから元気のパワーをもらっています。

これからも、地域環境や自然を幅広く、深く知り、自分たちの街や地域との違いも気づいてもらい、西区の魅力を再発見し、子どもたちとエコ活動に取り組んでいきたいと思っています。



春の琴似発寒川